

●訓練想定

10月1日午後6時、太平洋上南海トラフを震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、60秒後、関市の広範囲で震度6弱を観測。市内では、住宅・施設などの倒壊、道路交通網の寸断、電気・ガス・水道などライフラインの遮断などが発生した。



関市総合防災訓練 災害時こそ、一人一人の力が必要です

とき

10月1日(土)午後6時～8時30分

ところ

市内全域 (主会場) 武芸川中学校グラウンド

照会先

危機管理課

☎ 7736

今年3月11日に発生した東日本大震災。この震災により多くの尊い命が奪われ、いまだ多くの方が不自由な生活を送られています。

大規模な災害が発生した初期段階では、消防隊や救急隊が現場にいち早く駆けつけ、消火活動や人命救助などの多くの要請に応えることは極めて困難です。こうした状況では、自分の身と家族は自ら守る「自助」と、地域は地域みんなを守る「共助」で、災害に対応しなければなりません。

私たち関市にもいつ大規模な災害が襲ってくるかもしれません。いざという時のために、防災訓練に参加し、隣近所同士コミュニケーションを深め、助け合いの絆を深めましょう。

避難訓練(市内全域)

地震が発生したとき、皆さんはどこに避難したらよいかご存じでしょうか。それぞれの自主防災会ごとに避難する場所を決めています。

その避難場所や避難場所までに安全にたどり着くまでの道順などを再確認し、家族全員が知るために必要などでも重要な意味のある訓練です。

各種体験訓練(主会場)

武芸川中学校ではどなたでも参加できる各種展示・体験コーナーを設置するほか、実際の災害発生直後にやらなければならない次のような訓練を行います。

●体験できる訓練

起震車体験／倒壊家屋救出救護／負傷者搬送／消火器取り扱い／心肺蘇生法、AED取り扱い／炊き出し／災害時要援護者緊急避難／避難所体験・運営 など

●災害対策に関する展示・体験やPR

防災バス展示(現地本部)／災害機動車展示／防災備蓄倉庫内資機材展示／災害用伝言ダイヤル利用／住宅耐震診断／煙道体験 など

●防災関係機関との訓練

関係機関協力体制確立／ライフライン復旧 など





● 訓練の流れ

- 1 地震発生「自らを守る・家族を守る・あわてずに行動」
 - ・大声で家族に声をかけて、倒れてきそうな家具から離れましょう
 - ・机の下に隠れるなど、まずは身を守ることが第一
- 2 屋外へ避難【家族の安否確認】
 - ・非常持出袋などを持って家族で避難しましょう
- 3 避難場所へ【隣近所とみんなで避難】
 - ・積極的に声をかけてみんなで避難しましょう
- 4 避難場所到着【避難状況報告】
 - ・避難所に到着したら、自主防災会長に避難したことやけが人の状況を伝えましょう
- 5 自主訓練開始【初期消火・応急手当】
 - ・自主防災会を中心とした各種訓練を開始します
- 6 解散【家族で防災会議】
 - ・実際に地震が発生した時に、各自がすべきことなどを家族で話し合います。

- ◆ 避難行動は基本的に徒歩でお願いします。
- ◆ 当日は、夕暮れ近くとなりますので、懐中電灯や夜光タスキなどを身につけるなど、十分注意しましょう。
- ◆ 「自主防災会」が決めている避難場所をあらかじめ確認しておきましょう。

災害用伝言ダイヤルの使い方

大規模災害時に、被災地での安否確認の手段として設置されるのが、NTTの「災害用伝言ダイヤル」、携帯電話の「災害用伝言板」です。電話がつながりにくい災害時は、これらのサービスを利用しましょう。

災害用伝言ダイヤルの利用法

伝言の録音方法 ※音声ガイダンスにしたがって利用してください

171 → 1 → 被災地の人の電話番号 (市外局番から) → 伝言を吹き込む (30秒以内)

伝言の再生方法 ※音声ガイダンスにしたがって利用してください

171 → 2 → 被災地の人の電話番号 (市外局番から) → 伝言を聞く

※ 171 は「伝言ダイヤルを忘れてイナイ?」と覚えておきましょう

携帯電話の災害用伝言板

災害時（震度6弱以上の地震など）に携帯電話サービス会社は「災害用伝言板」を開設します。被災地の人の安否情報を伝言板に登録でき、登録された伝言は、同じ会社の携帯電話はもちろん、他社の携帯電話やPHS、パソコンからでも確認することができます。

伝言板登録のしかた

各社のトップメニューから「災害用伝言板」を開く → 「登録」を選択して伝言

伝言板確認のしかた

各社のトップメニューから「災害用伝言板」を開く → 「確認」を選択して被災地の人の携帯電話番号を入力して伝言を見る

※ サービスの詳細は各携帯電話会社にお問い合わせください